

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。
a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。
c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

□

問一 自己の非実在感

[5点]

問二 a || へ b || 二

c || 口

d || チ

[3点×4]

問三 前者は人間一般の客観的対象的な捉え方であるので感情を動かされることはないが、後者は自分の実存や生き方に関わるため、死を望まない人にとっては恐怖でしかないから。(79字) [10点]

a 3点

b 2点

A. 前者は人間一般の客観的対象的な捉え方であるので感情を動かされることはないが、

[5点]

a 3点

b 1点

c 1点

B. 後者は自分の実存や生き方に関わるため、死を望まない人にとっては恐怖でしかないから。 [5点]

※「前者」と「後者」の2語を使っていない場合は全体無得点。

A a: 「客観的」か「対象的」が入っていれば得点。これを「名詞的」「主語的」とした場合合は得点を認めない。

B a: 「私の実存」「私自身の世界のかかわりかた」「私の生きかた」「実践的関与をうながす」といった内容があれば得点。「主観的にかかわる」だけの場合は2点。

問四 「私が花を見ているということ」が成立することで、花は単なる物理的存在を脱して

「花というもの」として現れるということ。(58字) [8点]

a 4点

A. 「私が花を見ているということ」が成立することで、

a 1点

b 3点

B. 花は単なる物理的存在を脱して「花というもの」として現れるということ。

※「私」「花」「こと」「もの」の一語でも欠けた場合は全体無得点。

※Aが欠落しBだけのものは、因果構造が成立していないため全体無得点とする。

問五 (三) [5点]

問六 ハ [4点]

問七 ニ・へ(順不同) [3点×2]

[計50点]

二 (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各2点 (計8点)

- 1 吐露
- 2 唐突
- 3 矛先
- 4 担保

※解答通り

問二 各3点

- 一
- 二
- 三
- ホ

※解答通り

問三 4点

2

※解答通り

問四 6点 (模範解答例)

A ○2点

豊かさの獲得を目指して

B ○2点

選択の幅を広げてきたのに、

C ○2点

その結果、選択の決定が困難になったという状況。

(47字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「豊かさの獲得を目指して」(2点)

※傍線部「皮肉」について、「期待された良い結果」の指摘。

○「選択肢の豊かな世界の実現を目指して」も可。

*「選択肢の豊かな世界の実現を目指して」は「豊かな世界の実現を目指して」という部分に得点を与える。はじめから「選択肢の豊かさ」を目指しているわけではない。

B 「選択の幅を広げてきたのに」(2点)

※A・Cのポイントとの関係で「選択肢が増やされた」ことについて説明。

△「近代化を進めてきたが」は、「近代化」が必ず「選択肢の増加」を意味するわけではないので説明不十分で、▲1点減点で△1点。

* A・BとCの関係は「皮肉」な関係であるので、逆説のニュアンスを示していることが必要である。

「～のに」「～が」「かえって～」などの表現があるかどうかチェックする。そのことが示されていない答えはBの部分に得点を入れない。B・Cは「増やした(B)のに(逆説のニュアンス)うまくいかなかった(C)」という関係である。

C 「その結果、選択の決定が困難になったという状況」(2点)

※傍線部「皮肉」について、「良くない結果」の指摘。

問五 6点 (模範解答例)

A ○2点

社会の中に自己を評価する明確な規準があり、

B ○2点

その規準に従って、

C ○2点

他の手本となれる行動ができる存在。

(47字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「社会の中に自己を評価する明確な規準があり」(2点)

※傍線部のある「それ」の内容を説明。

* 「社会の中にある」ことの指摘で1点、「明確な規準である」ことの指摘で1点。

* 「規準」はもちろん「基準」も可。

B 「その規準に従って」(2点)

※傍線部「従順な模範生」であるから「規準に従うこと」という性質であることの指摘。

C 「他の手本となれる行動ができる存在」(2点)

※「模範」の意味的説明。

○ 「誰もが認める存在」も可。

△ 「優秀な存在」は、「模範」の意味に厳密には当てはまらないので▲1点減点で△1点。

* 学校の教師と生徒の関係で説明しているものは傍線部の文脈から読み取れないので×0点。

A ○2点

社会の中に多種多様な価値観が存在するため、

B ○2点

現代の子どもたちは、

C ○2点

自分が進んでいる方向が正しいかどうか、

D ○2点

常に周囲の評価を気にしなければならず、

E ○2点

正しさを得るため他者から自己承認を強く求めるということ。

(97字)

※A・B・C・D・Eに関して部分採点

A 「社会の中に多種多様な価値観が存在するため」(2点)

※問五との対比で、社会の価値観が多様化していることの説明。

B 「現代の子どもたちは」(2点)

※「承認願望」を持つ主体を指摘。

×「現代の日本人は」は×0点。

C 「自分が進んでいる方向が正しいかどうか」(2点)

※現代の子どもたちが自分の選択した方向性に不安を感じていることの説明。

D 「常に周囲の評価を気にしなければならず」(2点)

※Cのポイントの不安を解消するために周囲の評価が必要であることを説明。

E 「正しさを得るため他者から自己承認を強く求めるといふこと」(2点)

※Dの評価によって自己の存在を確認していることの説明。

×「(Dを受けて)それを羅針盤としている」は×0点。

*傍線部直前の「このような」という指示語に注目し、傍線部のある段落の内容をまとめる。

*Eのポイントの「羅針盤」を用いた説明は、「承認願望の強まり」の言い換えになっていない点、比喩表現をそのまま用いている点で×0点。

問七 各5点

口・へ

※解答通り(順不同)

問一

㉑すくせ

㉒めのと

㉓けしき

㉔ひがしおもて(ひんがしおもて)

(各1点×4)

㉕は「うば」では×。㉖は「ひんがしおもて」でも可。

問二(5点×3)

問二・A・模範解答例

A

a (1点) b (1点) c (2点) d (1点)

身分の高い人も低い人も泣き騒いでいる様子は、たいそう忌まわしく思われる。

(5点)

【各部の採点】 5点満点。 加点ポイント4箇所。

a 「身分の高い人も低い人も」…1点

「身分の高い人と身分の低い人」のように書いてあること。「人々」では×。

b 「く泣き騒いでいる様子は」…1点。

この箇所が主部になっていること。「く泣き騒いでいるのは」でも可。「たる」が「くしている」のように存続の意であること。 完答。

c 「たいそう忌まわしく」…2点。「ひじょうに不吉に」でも可。 完答。

d 「思われる」…1点。「思われる・感じられる」などのように書いてあること。「く見える」は×とする。

問二・D・模範解答例

D

a (1点) b (2点) c (1点) d (1点)

男君達が一人前になるようなことは難しい。

【各部の採点】 5点満点。 加点ポイント4箇所。

a 「男君達が」…1点。対象の補足。「あなたたち」では姫君も対象に入ってしまうので×とする。

b 「一人前になる」…2点。「人となる」の解釈。「ひとかどの人物になる」でも可。

c 「ようなことは」…1点。「む」の婉曲用法。

d 「難しい」…1点。「かたし(難し)」の解釈。

問二・F・模範解答例

F

a (2点) b (3点)

再び父上に逢えないようになら困る。(5点)

【各部の採点】 5点満点。 加点ポイント2箇所。

a 「再び父上に逢えないように」…2点。

「二度と父上に逢えないように」の意。 完答。「父上・父の大将」という対象の補足。「父上・父の大将」の代わりに「髭黒の大将」も誤りではないので認める。

b 「くなら困る」…3点。「くもこそ…已然形」の解釈。「くしたら大変だ」も可。 完答。

問三 1 すゑ 2 みゆる 3 ゐ (1点×3)

解答のままでないとき零点。

問四 二 (5点)

問五 殿 (5点)

問六 7点

問六 模範解答例
(7点)
a (2点) b (1点) c (3点) d (1点)
父の大将のような 薄情な人 には子息たちの 後見など期待できないということ。(三五字)

【各部の採点】7点満点。加点ポイント4箇所。

a 「父の大将のような(人)には子息たちの」…2点。
「父の大将には子息たちの」のような人間関係の説明。

b 「薄情な」…1点。
「情が薄い・つめたい・心変わりした」などという父の性格についてのマイナス面での評語。

c 「後見など期待できない」…3点。「子供たちの将来を託せない」でも可。

d 「くこと」…1点。説明問題の文末処理。この箇所だけ正解しても加点しない。

問七 7点

問七 模範解答例
a (2点) b (2点) c (3点)
慣れ親しんできた父の大将の邸を離れることを名残惜しく思う心情。(三二字)(7点)

【各部の採点】7点満点。加点ポイント3箇所。

a 「慣れ親しんできた邸を離れること」…2点。
「慣れ親しんだこの場所を離れること」の意。「この邸宅を離れること」は1点。

b 「父の大将の」…2点。「父の」の補足。邸宅を離れるとは父との別離につながるから。

c 「名残惜しく思う心情」…3点。姫君の心情の説明。「く」という心情」の文末処理。「名残惜しさ」は可。

問八 口・二 (2点×2・順不同)

四 (漢文) 採点基準 (合計 50 点)

問一 【解答通り】 各 2 点 2 × 4 = 8 点

模範解答

- a ㍯ いかん (と) b ㍯ いえど (も) c ㍯ すなわ (ち)
d ㍯ いよいよ

採点基準

歴史的仮名遣いにしたもの 0 点。b 「いへど (も)」 c 「すなは (ち)」。

問二 7 点

模範解答

必ず人徳の備わった立派な人物になるために

a 3 点

b 2 点

c 2 点

学ぼうとしているのか、そうでないのか。

採点基準

- ・ 文が不完全のもの… 0 点。
- a ・ 「君子」を具体化していないもの 0 点。
 - ・ 「教養のある人物」なども可。
 - ・ 「すばらしい人」… 1 点。
- ・ 反語文にとっついていて「優れた人物」など「君子」の具体化のみの場合は 2 点。
- ・ 「必ず」に相当する語がない場合減点 1 点。
- b ・ 願望表現のないもの減点 1 点。
- c ・ 「そう」の部分具体化して、「学ぼうとしていないか」も可。
 - ・ 「どうか」だけでは不可。
 - ・ 「いや」をつけたもの 0 点。反語ではない。

問三 各5点 10点

模範解答

a 3点 b 2点

B || ただ 得るものがない だけでなく、

c 2点 d 3点

C || 進む道の 分岐点である。

採点基準

累加形の構造を理解していること。↓ aで採点。

a・「ただ」だけでなく」のセットで3点。

・「ただ」はなくとも可。

c・「立派な人とそうでない人」など解釈を含むもの1点。

・「将来の」「進むべき」など可。

d・「分かれ道」など可。

・「である」の断定がないもの減点1点。

問四

【解答通り】 5点

解答

|| 不_レ得_レ不_下詢_二諸 父 兄_一、諮_中於 諸

友_上。

採点基準

・送り仮名をつけたもの減点3点（送り仮名の正否は不問）。

問五

【解答通り】 3点

解答

|| 亦

問六 7点

模範解答

a 1点

b 3点

生徒に教えるのに 適切な方法を用い、

c 3点

適切な順序を間違えない 人物。

採点基準

a・「適切」は「正しい」「良い」も可。

b c・「方針」「方向」は不可。

問七 10点

a 3点

模範解答

君子であらうとする志を立て、

b 1点

c 1点

良い先生に就き、古の教えを学び

d 1点

e 1点

疑問を父兄諸友に尋ね、人より努力し、

f 1点

g 2点

繰り返しおこなって 自分の力で深く考えるように すべきである。

採点基準

a・「正しい志」も可。

c・「古の聖賢前哲に学び」も可。

e・「努力し」「懸命におこない」なども可。

g・「自分の力」に1点、「深く考える」に1点。